

教員業績一覧（2012年度）

五十嵐 泰正

【共編著】

- 1 五十嵐泰正 + 「安全・安心の柏産柏消」円卓会議『みんなで決めた「安心」のかたち ポスト311の地産地消をさがした柏の一年』並紀書房，2012年12月。
- 2 中筋直哉，五十嵐泰正編著『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房，2013年3月予定。

【ウェブ記事】

- 1 「「My 農家を作ろう」方式の放射能測定がもたらしたもの」、『SYNODOS JOURNAL』，2012年11月，<http://synodos.livedoor.biz/archives/2001647.html>
- 2 「地産地消のためのセカンドオピニオン」『SYNODOS JOURNAL』，2012年12月，<http://synodos.livedoor.biz/archives/2006499.html>
- 3 「リスクを決めるのは科学ではなく，社会だ」（シンポジウム「みんなで決める安心のカタチ」抄録）『SYNODOS JOURNAL』，2012年12月，<http://synodos.livedoor.biz/archives/2010874.html>

【事典項目執筆】

- 1 「下町／山の手」「ウォーターフロント」「ドーナツ化現象」『現代社会学事典』弘文堂，2012年12月。

【インタビュー，対談記事など】

- 1 「ギリギリまで考え，みんなで決める基準」生活クラブ連合会『生活と自治』2012年6月号，2012年6月，22～23ページ。
- 2 「新都政が超えるべきは「石原」ではない」NPO法人POSSE『POSSE』17号，2012年12月，15～31ページ（町村敬志との対談）。
- 3 「自著を語る」『農業共済新聞』，2012年2月15日。
- 4 「ポスト3.11，地元の食の「安心」をみんなで考えた」『ソトコト』2012年4月号，2012年3月，32～35ページ。
- 5 「安全性と併せ，別の価値を提示しよう」家の光協会『地上』2012年4月号，2012年3月，32ページ。

【学会口頭報告，講演など】

- 1 「「My 農家を作ろう」プロジェクトの紹介と，農地からの放射能測定の実際」『美味しい My 農家ナイト』京北ホール，2012年4月。
- 2 「「風評」被害から信頼の構築へ」『上野商店街連合会定期総会』，上野区民

館，2012年6月。

- 3 「『風評』被害から信頼の構築へ——「安全・安心の柏産柏消」円卓会議の紹介を中心に」『生活クラブ連合会コア産地集会』，JA全農青果センター，2012年10月。
- 4 「『風評』被害から信頼の構築へ」『シンポジウム みんなで決める安心のカタチ——ポスト311の産地消をさがして』，柏市民文化会館，2012年12月。
- 5 「不確実なリスクを前にした協働の役割——「安全・安心の柏産柏消」円卓会議の事例から」『地域社会学会第4回研究例会』，東京大学，2013年2月。
- 6 「分断と無関心を超えて」(開沼博との対談)「『いいモノ』食ってりゃ幸せか？」(遠藤哲夫との対談)『どうすれば「みんなで決める」ことができるのか？』，雑司が谷地域文化創造館，2013年2月。
- 7 「『風評』被害から信頼の構築へ」『連続講演会：放射線について「知って・測って・伝える」ために』農林水産省共済組合南青山会館，2013年2月。
- 8 「柏での協働でできたこと／できなかったこと」『いわきの食を考えるフォーラム』いわき市中央台公民館，2013年3月。
- 9 (司会，コーディネイト)『学生からのアメ横活性化策』アメ横表通り商店街振興組合・アメヨコネット共催，2013年3月予定。

【メディア出演，コメント等】

- 1 『首都圏ネットワーク』NHK，2012年4月2日。
- 2 『おはよう日本』NHK，2012年4月3日。
- 3 「セシウム 広がる独自対策……食品新規制値受け」『読売新聞全国版』復掲掲示板欄，2012年4月10日。
- 4 『あさイチ』NHK，2012年4月12日。
- 5 「柏産「信頼，安心を提供」……風評被害払拭へ「My 農家を作ろう」プロジェクト」『産経新聞千葉版』，2012年4月12日。
- 6 『おはよう日本』NHK，2012年4月19日。
- 7 『NEWSチバ930』千葉テレビ，2012年4月23日。
- 8 「安心のため 独自基準20ベクレル……柏の団体 農産物調査」『読売新聞東葛版』2012年4月29日。
- 9 「美味しいMy 農家ナイト」『ちばコレ』J：COMチャンネル，2012年5月7日～13日。
- 10 「これで安心？食品放射能検査」『あさイチ』NHK，2012年5月14日。
- 11 「つながる：ソーシャルメディアと記者 野菜の安全，ネットで発信」『毎日新聞東京版』，2012年6月9日。
- 12 『NEWSチバ930』千葉テレビ，2012年11月26日。
- 13 『浜美枝のいつかあなたと』文化放送，2013年2月24日。
- 14 「食卓と信頼つなげ」『朝日新聞全国版』2013年3月6日。

樽川 典子

【共著】

- 1 「『構成白書』のなかの家族と母子」『戦後日本における内政体制の研究』平成21年度～平成23年度科学研究費研究成果報告書（代表研究者・副田義也），2012年，44～54ページ。
- 2 「C・S ケース」『東日本大震災事例集』

【講演録】

- 1 「震災とジェンダー」『土浦市男女共同参画センターフェスティバル記録集』1～7ページ

土井 隆義

【論文】

- 1 「秋葉原から被災地へ——映画「RIVER」にみる眼差しの行方——」『こころの科学』第164号，2012年7月，2～8ページ。
- 2 「孤立不安を煽られる若者たち」『青少年問題』第648号，2012年10月，14～19ページ。
- 3 「フラット化する社会のリーダー像」『児童心理』第66巻（第16号），2012年11月，1～10ページ。
- 4 「脱フラット化への渴望——キャラ化した社会のカリスマ待望論——（前編）」『ケサランパサラン』第13号，2013年2月，78～84ページ。
- 5 「友だち地獄——「空気を読む」世代のサバイバル——」『思春期学』第31巻第1号，2013年3月，1～10ページ。
- 6 「脱フラット化への渴望——キャラ化した社会のカリスマ待望論——（後編）」『ケサランパサラン』第14号，2013年3月，78～84ページ。

【書評】

- 1 「鈴木晶『教室内カースト』光文社新書（2012）」『下野新聞』18面，『北國新聞』9面，『秋田さきがけ』8面，2013年2月3日（共同通信による配信）

【その他】

- 1 「小国・土井のここが問題——伝統回帰を示す若者たち——」『青少年問題』，第646号，2012年4月1日，54～57ページ。
- 2 「若者はなぜ「一人ぼっち」を怖がるのか？（インタビュー記事）」株式会社PH P研究所『THE 21』5月号（第330号），2012年4月10日，71～73ページ。
- 3 「平成5年生まれの新大学生——彼らが生きてきた時代と価値意識——」『宣伝会議』第835号，2012年4月15日，88～90ページ。

- 4 「絆と教育 Part 2 —— 現代の子ども、若者が抱える「優しい絆」に迫る —— (座談会)」掲載 WEB: 『日本教育再興連盟』リレー対談コーナー, 2012年4月16日。
- 5 「初音ミク 人気の秘密 —— 支援の感覚, 若者に浸透 —— 」『北海道新聞』9面, 2012年4月20日。
- 6 「“みんなで盛り上がる” 若者を生むネット文化 (インタビュー記事)」『公明新聞』5面 (学芸面) 2012年5月16日。
- 7 「なぜ気になる, AKB総選挙 —— 現実と真逆の理想郷 —— 」『北海道新聞』9面, 2012年6月29日。
- 8 「モグラの歩みを支えるために —— 岩波ブックレット創刊30年に際して —— 」『図書』第761号, 2012年7月1日, 20~23ページ。
- 9 「“がんばれニッポン!” の社会学 —— なぜ今, スポーツに熱狂するのか —— 」『宣伝会議』第840号, 2012年7月1日, 32~33ページ。
- 10 「小国・土井のここが問題 —— SNS ネイティブの人間関係 —— (小国綾子との共著)」『青少年問題』第647号, 2012年7月1日, 50~53ページ。
- 11 「刑政時評: AKB48の人气が示唆するもの」『刑政』第123巻第7号, 2012年7月1日, 52~53ページ。
- 12 「「富田林高齢者狩り」に隠された意味 —— 朝日放送「キャスト」コメント —— 」朝日放送『キャスト』報道局ニュース情報センター, 2012年7月11日。
- 13 「いじめられている君へ —— 友達づくり, 苦手でもいい —— 」『朝日新聞』1面, 2012年7月23日。
- 14 「煽られた孤立不安を鎮めるために」『茨城いのちの電話』第80号, 2012年8月, 2~4ページ。
- 15 「いじめ問題と向き合うために —— 大人がすべきこと, すべきでないこと —— 」掲載雑誌: 『こころの科学』特集号, 2012年8月, 132~137ページ。
- 16 「更生施設開設に住民3分の2同意 —— 松伏町が異例の条例案検討 —— 」掲載雑誌: 『産経新聞』埼玉版25面, 2012年8月3日。
- 17 「最悪のいじめ事件 (コメント)」『女性セブン』第50巻第31号, 2012年8月9日, 47~51ページ。
- 18 「「絆が大切」の落とし穴 —— いじめの根に閉じた関係 —— 」『中国新聞』オピニオン面, 2012年8月11日。
- 19 「学校の外にも仲間を —— なくそう, いじめ —— 」『読賣新聞』社会面 (32面), 2012年9月2日。
- 20 「孤立を過剰に恐れる社会 —— いじめ問題の背後に潜むもの —— 」『北海道新聞』9面, 2012年9月14日。
- 21 「いじめられている君へ —— 友達づくり, 苦手でもいい —— 」朝日新聞出版『完全版 いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ』, 2012年9月, 32~33ページ。

- 22 「自著を語る『若者の気分 少年犯罪〈減少〉のパラドクス』『青少年問題』第648号, 2012年10月, 57ページ。
- 23 「いじめから子どもを救う——異質な世界に目を開こう——」『女性のひろば』第404号, 2012年10月, 38~41ページ。
- 24 「刑政時評: 刑事司法の専門家に期待するもの」『刑政』第123巻第11号, 2012年11月1日, 66~67ページ。
- 25 「後期近代のモノ離れ——つながり渴望する若者——」『北海道新聞』7面, 2012年11月9日。
- 26 「若者のキャラ化といじめ(斎藤環との対論)」『現代思想』12月臨時増刊号, 2012年11月25日, 22~41ページ。
- 27 「「関係性」を問い直す——少年犯罪をめぐる視点から——」『現代と親鸞』第25号, 2012年12月1日, 157~183ページ。
- 28 「大人が知らない“現代のいじめ”」『ducare』第14号, 2012年12月18日, 14~22ページ。
- 29 「見つめられる存在」から「見つめる存在」へ」『みちびき』第129号, 2013年1月, 4ページ。
- 30 「承認されたい現代人と拡大するつながり消費」『宣伝会議』第854号, 2013年2月1日, 72~73ページ。
- 31 「いじめ問題と道徳教育——「協調性」の押しつけは逆効果——」『北海道新聞』9面, 2013年2月15日。
- 32 「「体罰」を問う——人間関係の変化を踏まえて——」『信濃毎日新聞』29面, 2013年2月15日。
- 33 「子どもたちの不安のありか——流動化した社会の生きづらさ——」『あけぼの』第58巻第3号, 2013年3月1日, 8~9ページ。

【学会報告】

- 1 「友だち地獄——「空気を読む」世代のサバイバル——」『日本思春期学会 第31回学術大会・基調講演』軽井沢プリンスホテル, 2012年9月1日。
- 2 「少年院における矯正教育の構造に関する研究(4)」(共同報告者: 村山拓(帝京平成大学) 岡邊健(山口大学) 後藤弘子(千葉大学) 山本功(淑徳大学))『日本犯罪社会学会 第39回大会自由報告』一橋大学, 2012年10月27日。
- 3 「後期近代社会における専門家システムのあり方をめぐって」『日本犯罪社会学会 第39回大会 シンポジウム「裁判員制度は刑事司法をどう変えるか?」』一橋大学, 2012年10月28日。

【事典項目】

- 1 「生きがい」「逸脱」「ナルシズム」「非行」『現代社会学辞典』弘文堂, 2012年12月。

野上 元

【報告】

- 1 「『戦争社会学』とメディア史研究」日本マス・コミュニケーション学会第33期第6回研究会（メディア史研究部会企画），2012年5月12日，於：同志社大学。
- 2 「消費社会の記述と冷戦の修辞」第85回日本社会学大会（研活テーマセッション「戦争を社会学する」），2012年11月4日，於：札幌学院大学。

【その他】

- 1 （書評）吉田裕『兵士たちの戦後史』岩波書店（『日本歴史』2012年11月号（774号）），132～134ページ。
- 2 （書評）高井昌史編『「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー』人文書院（『図書新聞』3062号（2012年5月19日号））
- 3 （項目執筆）「戦争体験」「戦争責任」「総力戦体制論」「歴史修正主義」『現代社会学事典』弘文堂，2012年11月。

黄 順姫

【原著論文】

- 1 「『越境格差のツール』としての化粧・ファッション」『学習たより』172号，日本理容美容教育センター，2012年，11～15ページ。
- 2 「新韓流の文化社会学」『日本研究』，第18集，高麗大学校日本研究センター，2012年，7～34ページ（韓国語翻訳論文）。
- 3 「W杯サッカー大会への集体的身体の記憶」『社会学ジャーナル』筑波大学社会学研究室，第38号，2013年，69～83ページ。
- 4 「大学生の留学志向類型別による学校的身体文化の差異化」，河合淳子編『現代大学生の留学志向に関する国際比較研究』，科学研究費補助金基盤C平成22～24年，2013年3月。

【国際学会発表研究活動】

- 1 「越境する格差社会の身体文化」，韓国日本教育学会月例会，ソウル教育大学，2012年7月28日。

【その他】

- 1 「副田義也氏の社会学を語る」『参加と批評』第6号，ムツ・アート社，2012年，202～203ページ。
- 2 「コーディネート・主催」アカデミック・プレゼンテーション・コンテスト『国際派筑波大学教育への期待——グローバル社会を生き抜く戦略——』2013年2月15日，筑波大学1D201。

森 直人

【著書】

- 1 「20世紀福祉レジームの形成と教育をめぐる諸問題——日本の経験に即して」橋本伸也・広田照幸・岩下誠編『近現代世界の国家・社会・教育』昭和堂，2013年3月。

【論文】

- 1 「『福祉国家』構想と〈授産〉の歴史的布置——教育機会と生存保障のはざままで」三時眞貴子編『教育「支援」とその「排除性」に関する比較史研究：中間報告書』（平成23～25年度科学研究費補助金・基盤研究(C)），2012年5月。
- 2 「〈教育的なるもの〉再考——「福祉国家と教育」をめぐる一試論」広田照幸編『教育の設計と社会の設計』（平成22～24年度科学研究費補助金・基盤研究(B)）報告書，2013年3月。
- 3 「20世紀日本の教育＝福祉レジームの形成と再編——問題の設定と展望」筑波大学社会学研究室『社会学ジャーナル』第38号，2013年3月。

【その他】

- 1 「書評：天野郁夫『大学の誕生（上・下）』（中公新書，2009年）——著者を迎えて」広田照幸編『教育の設計と社会の設計』（平成22～24年度科学研究費補助金・基盤研究(B)）報告書，2013年3月。

【報告・講演など】

- 1 「学校・職業・訓練の「日本的」構造をめぐる研究レビュー」（報告）於慶應義塾大学，比較教育社会史研究会例会，2012年6月23日。
- 2 「『四六答申』以後の教育政策・教育言説と個性化教育——N.Y.氏のライフヒストリーから」（報告）於日本大学，社会理論・社会構想と教育システム設計プログラム（歴史セッション），2012年7月28日。
- 3 社会理論・社会構想と教育システム設計プログラム（歴史セッション）「『ポスト四六答申』を考える——高等教育改革に即して」（基調報告）於ホテルマロウド筑波，2012年8月31日。
- 4 公開シンポジウム「教育システム設計における社会理論と規範理論——その整合性をどう考えるか」テーマ2「現代社会の変化と教育システム」（司会）於日本大学文理学部百周年記念館，2012年11月23日。

大学院生(国際公共政策専攻、社会科学専攻)業績一覧(2012年度)

赤羽由起夫

【論文】

- 「学校内での子どもの殺人と学校の『責任』 —— 二つの同級生殺害事件を比較して」『現代の社会病理』27：57-74.
- 「少年犯罪と精神疾患の語られ方 —— 戦後の新聞報道の分析を通じて」『犯罪社会学研究』37：104-18.

【学会報告】

- 「学校の『責任』の社会的構築 —— 佐世保事件と羽幌事件の比較分析」日本社会病理学会第28回大会，自由報告，大阪市立大学，2012年9月29日.
- 「なぜ『現実と仮想の区別の喪失』は語られたのか」日本犯罪社会学会第39回大会，自由報告，一橋大学，2012年10月27日.
- 「『普通の子』の誕生 —— 少年犯罪報道の分析を通じて」日本社会学会第85回大会，自由報告，札幌学院大学，2012年11月3日.

大嶋 尚史

【論文】

- 「安全教育が目指しているものは何か？ —— 通学路に関する学校安全セミナーの事例から」(『社会学ジャーナル』第38号 筑波大学社会学研究室)

【学会報告】

- 「イデオロギーとしての学校安全」日本教育社会学会第64回大会，一般部会「学校」，同志社大学，2012年10月27日.

川山 竜二

【論文】

- 「科学システム論の理論構成 —— 科学社会学的方法の規準に向けて」(『社会学ジャーナル』第38号 筑波大学社会学研究室)

小谷 泉

【論文】

- 「言語聴覚士における国家資格制定過程 —— 「ことばの管轄権」をめぐる」(『社会学ジャーナル』第38号 筑波大学社会学研究室)

富井 久義

【論文】

- 「ボランティアな行動に見いだされる贈与の可視化／不可視化 —— あしなが育

英会大学奨学生をめぐる「恩返し」の思想の展開『年報社会学論集』25：156
-167.

【学会報告】

- 「安全・安心の柏産柏消」円卓会議にみる新しい地域づくり，社会運動の「かたち」コメンテーター，「現代文化における越境性・流動性に関する共同研究」第2回研究会，2013年3月28日。

【研究会報告】

- 「“森林ボランティア”の特質とはなにか——JUON NETWORK 鳩ノ巣フィ

永田 大輔

【論文】

- 「〈ほく〉の文化政治——あるおたく批評家の言説から」（『社会学ジャーナル』第38号 筑波大学社会学研究室）

【学会報告】

- 「おたく／オタクの誕生——1970年代後半——1980年代のアニメ雑誌上でのビデオの消費実践から見る文化社会学的研究」（コメンテーター：北田暁大氏），関東社会学会第七回修士論文フォーラム，帝京大学，2012年6月9日
- 「メディア使用から立ち上がる我々意識——ビデオとアニメ雑誌の再帰的關係から」
コンテンツ文化史学会第四回「コンテンツと記憶」，明治大学，2012年12月16日

宮地 弘子

【論文】

- 「ソフトウェア開発現場における自発的・没入的労働の相互行為論的考察」
『社会学評論』 Vol.63, No.2 pp.220-238

【学会報告】

- 「ソフトウェア開発エンジニアはなぜ燃え尽きるまで働くのか——「人々の社会学」の視角から」（関東社会学会 第60回大会 第8部会（労働）報告）

湯野川 礼

【研究ノート】

- 「「援助」から「支援」への言葉の変容にみる対人援助——浦河べてるの家の実践を事例として」（『社会学ジャーナル』第38号 筑波大学社会学研究室）